

# 平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 国立大学法人静岡大学

### 1 全体評価

静岡大学は、「自由啓発・未来創成」のビジョンに基づき、人材育成を旨とし、質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、国際感覚と高い専門性を有し、チャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、全学の教育マネジメントを担う体制として「全学教育基盤機構」を設置し、教育、学生支援、入学者選抜及び国際交流に関する基本方針等について、全学的な視点からの議論を可能としているほか、動画コンテンツ作成機器を設置して学修環境の整備充実を進めているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間において、産業界と連携したグローバル人材教育システムを構築し、アジアを中心とした企業の海外展開等を支える国際人材の育成に取り組む「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

平成27年度は、人材育成プログラム「アジアブリッジプログラム（ABP）」を開始し、学士課程11名、修士課程48名が平成27年10月に入学している。また、50余の企業等が参加しABPを支援する「ABP連絡会」を立ち上げるとともに、「大学改革シンポジウム」を開催するなど、産業界との連携を強化している。

#### 大学の機能強化に向けた取組の状況について

大学ガバナンス改革の一環として、「全学人事管理委員会」を設置し、執行部が主導的に人事を進めることにより、社会が求める人材育成に柔軟に対応した教員配置を可能としている。また、地域課題解決・地域人材育成のための全学横断教育プログラム「地域創造学環」の平成28年度開始に向け、カリキュラムの整備、教員確保、事務体制の整備等を進めている。

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

#### ○ 全学的な観点からの教員配置と選考を行う体制の構築

全教員を「学術院」に所属させ、学部研究科等の教育研究組織を「主担当」、「副担当」として担うこととするほか、大学ガバナンス改革の一環として全学的観点から教員人事計画を審議する「全学人事管理委員会」を設置し、本委員会が主導して人事を進める体制とすることで、従来の部局単位の縦割的人事管理から社会が求める人材育成に柔軟に対応した全学的教員配置を可能としている。

#### ○ 「全学教育基盤機構」の設置による各部局の連携体制の強化

全学の教育マネジメントを担う「全学教育基盤機構」を設置し、教育や学生支援、国際交流等を担う各センターと各部局とが相互に連携し、教育、学生支援、入学者選抜及び国際交流に関する基本方針並びに主要施策その他教育等に関する事項について、全学的な視点からの議論を可能としている。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

---

- ①財務分析結果の活用、②外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、③経費の抑制、④資産の運用管理の改善

### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 寄附金獲得の増加に向けた体制の強化

未来創成基金において学部・全学同窓会と大学が一体となって基金活動を推進する体制を構築するとともに、専門職員の配置や外部からファンドレイジング担当職員を雇用しているほか、グローバル人材育成アジアブリッジプログラム等の特定基金を本格的実施して募金活動を行った結果、獲得件数は836件（対前年度比382件増）、金額は約1億5,600万円（対前年度比約1億500万円増）となっている。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

---

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

#### (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

##### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

#### ○ 達成状況を踏まえた施設環境に係る構築指針・行動計画の策定

「グリーンキャンパス構築指針・行動計画2010-2015」におけるエネルギー使用量削減目標に基づいて第2期中期目標期間中の総括を行い、目標に対する達成状況を踏まえ、より意欲的な計画を盛り込んだ「グリーンキャンパス構築指針・行動計画2016-2021」を策定している。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

---

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 教育効果を高める学修環境の充実

学内のインターネット環境を拡充するとともに、情報基盤センターにおいて、反転授業、電子教材等の運用についての研修会の実施、教職員学生向けのソフトウェアの無償提供サービスの開始、両キャンパスにおける動画コンテンツ作成機器の設置等、学修環境の整備充実を進めている。

### ○ 地域企業との連携強化

地域連携生涯学習部門の地域連携コーディネーターを3名の体制に充実するとともに、学生の知財インターンシップ参加や知財ワークショップを実施しているほか、地域企業の特許公開等の知的財産管理に関する実務教育において連携を開始するなど、地域との連携を強化している。